

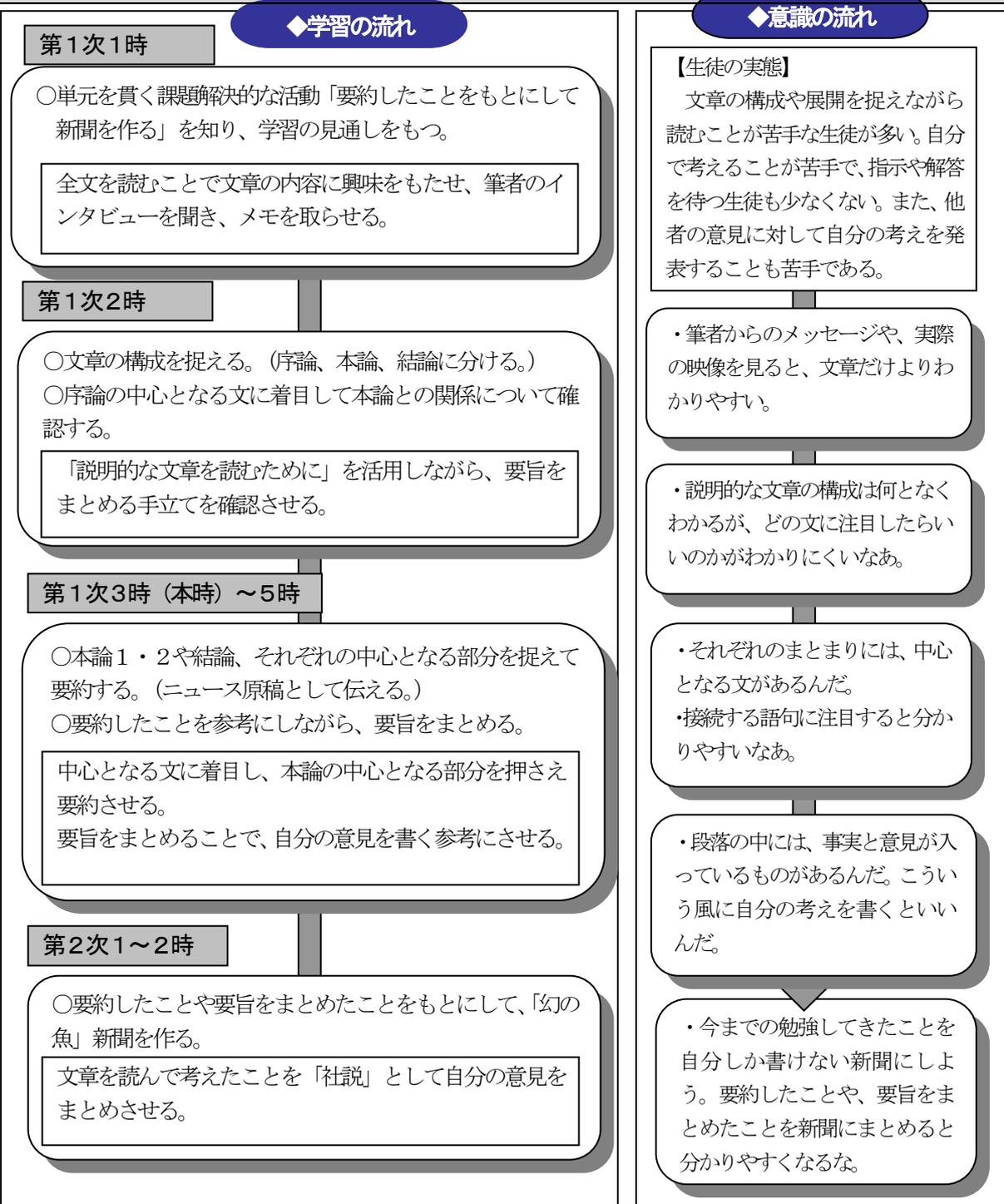
# 第1学年 国語科 学習指導案

平成29年10月24日(火) 第5校時  
高知市立愛宕中学校1年1組 生徒数34名  
指導者 西口 沙映

## 1 単元構想図

単元名  
「幻の魚は生きていた」(光村図書『国語1』)(全7時間)

**【単元でつきたい力】**  
・文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨を捉える力。  
・文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広くする力。  
・単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意して読む力。



## 2 単元について

### (1) 単元観

生徒が日々の生活で読む様々な文章には、説明や記録の文章も多く存在する。その論理的な表現は、展開の中心となる意見（考え）を述べた部分とそれを支える具体例などの付加的な部分などから構成されている。文章を読んだり、書いたりする場合はもちろんのこと、話し合う際にも、議論の中心となる論点を明確に捉えておくことは大切である。

本教材では、クニマスを題材にその絶滅、発見、維持、復帰について書かれており、発見に実際に関わった筆者による文章のため臨場感があり、具体的な魚の話を謎解き風に読み進めながら、環境問題についてさまざまに考えることのできる教材であることから、指導事項C（1）イにある「文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見など」を読み分けやすい文章になっていると考える。また、C（1）オにある「文章に表れているものの見方や考え方」をとらえた上で、「自分のものの見方や考え方を広くすること。」ができる文章である。書き手の考え方に共感したり、疑問をもつことなどを通して、新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事について考えられるようにするなど、読み手としてのものの見方や考え方を広げることができる単元である。

### (2) 生徒観

平成29年度の標準学力調査では、国語への関心・意欲・態度は71.5%と目標値よりも3.2ポイント高く、日々の授業にも意欲的に取り組む生徒が多い。また「読むこと」の領域では、目標値を2.2ポイント上回っているが、文学作品の読み取りに比べると、説明的な文章の読み取りは6.2ポイントも下回っていることが大きな課題である。特に、「文章の構成や展開を捉えること」が苦手な傾向にあり、これは、説明的な文章を読む際に、内容理解が中心となり、構成や論理の展開に着目して読むことへの意識が弱いためであると考えられる。

本単元は、実際の研究の経過に沿って記録的に記述されていることから、説明的な文章を読むことが苦手な生徒にも取りかかりやすい内容であると思う。1学期に「ダイコンと大きな根?」「ちょっと立ち止まって」で、文章を読む際には接続詞に注目して読むことで内容を把握できるということを実感できた。また、「シカの落ち穂拾い」では、筆者の考えとそれを支える根拠（事実）に着目して読ませ、豊富に提示されている図表の効果にも触れることで、「分かりやすい文章」「説得力がある文章」の書かれ方やその特徴を捉えてきた。今回は、具体的な魚の話を謎解き風に読み進めながら、文章の構成や展開について考えたり、要旨をまとめたり、書き手のものの見方や考え方を捉えさせたい。

### (3) 指導観

「要約したことをもとにして新聞を作る」という単元を貫く課題解決的な活動を位置付けることで、主体的に子どもたちが学習に臨むことができると考える。第1次では、教科書教材を使って、文章の構成を考えながら文章を読み、中心となる文を見つけ要約する学習を行う。また、結論の部分では事実と意見を読み分ける学習を行い、要旨をまとめる学習を行いたい。その後、第2次では、デジタル教科書教材をモデルとして、要約したことをもとに新聞を書くことの学習を行うことで学習の定着を一層図りたいと考えている。

第1次の導入では、生物の絶滅について知っていることについて話をする中で生徒に興味・関心をもたせた後、学習全体の見通し本単元で身につけさせたい力を明確にし、ゴールイメージをもたせる。単元を貫く課題的な学習として新聞作りを位置づけることで、要約することや要旨を捉える必要感をもたせる。そのために本文全体を筆者のインタビューとして考えさせ、クニマスが発見された事をニュースとして伝えるための原稿を書くことや、「幻の魚」新聞の記事を書くことで、要約及び要旨の必要性に気づくことができると考える。これから生徒は日常生活において、要約しなければならぬ場面に直面する。各教科の学習のまとめを行う時や人の話を聞くときなど、物事の中心部分を捉えることでより内容を理解する力を身に付けることができる。そのような学習を積み重ねていくことで、自分が話をする際にも、伝えたいことは何かを考えることができるようになる。本教材では、文章の構成を捉え、次に中心となる文を捉えることや、何度も出てくる言葉がキーワードになるということに気づかせ、今後の学習の幅を広げて、主体的に学習する姿勢を育成していく。

また、書いたものを互いに読み合い、意見交流することで文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広くする力をつける。さらに個人→グループ→個人という思考過程を踏むことで、一人一人の考えを深めることにつなげる。

第2次では、学習したことをもとに、「幻の魚新聞」を書く場面を設定し、前時までの要約、要旨を基に筆者の意見を明確にして、筆者との対話的な学びを展開していきたい。また、新聞という表現技法を使って学習の振り返りを行う。

### 3 単元の目標

- ・文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨を捉えることができる。
- ・文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広げることができる。
- ・単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意して

### 4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<p>・説明的な文章を読み、新たな発見や驚きなどを通して、自然と人間の関係についての自分の考えを広げようとしている。</p> <p>・中心となる文章に着目しながら、要旨を捉え、新聞を書こうとしている。</p>	<p>・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨を捉えたりしている。 【読(1)イ】</p> <p>・文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のもの見方や考え方を広げている。 【読(1)ウ】</p>	<p>・単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意して使っている。 【伝国(1)イ(エ)】</p>

5 指導と評価の計画 (全7時間)

次	学習内容 (時数)	評 価			評価規準	評価方法
		関	読	言		
1	・単元を貫く課題解決的な活動「要約したことをもとにして新聞を作る」を知り、学習の見通しをもつ。	◎			・説明的な文章を読み、新たな発見や驚きなどを通して、自然と人間の関係についての自分の考えを広げようとしている。【関】	ワークシート 観察
	・文章の構成を捉える。 ・序論の中心となる文に着目して本論との関係について確認する。		◎	○	・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨を捉えたりしている。 【読 (1) イ】 ・語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して読んでいる。【言 (1) イ (イ)】	ワークシート 観察
	・本論1の中心となる部分を捉えて要約する。(ニュースの原稿を考える。) (本時)		◎		・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨を捉えたりしている。 【読 (1) イ】	ワークシート 観察 発言
	・本論2の中心となる部分を捉えて要約する。(ニュースの原稿を考える。)		◎		・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨を捉えたりしている。 【読 (1) イ】	ワークシート 観察 発言
	・結論の中心となる部分を捉えて要約する。 ・要旨をまとめることで、自分の意見を書く参考にする。		◎	○	・文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のもの見方や考え方を広くしている。 【読 (1) ヲ】 ・説明的な文章を読み、新たな発見や驚きなどを通して、自然と人間の関係についての自分の考えを広げようとしている。【関】	ワークシート 観察
2	・新聞を書くために、まとめた要約・要旨を整理し、文章の構成を考える。 ・新聞のレイアウトを考えながら、下書きを書く。		◎	○	・文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のもの見方や考え方を広くしている。 【読 (1) ヲ】 ・単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意して使っている。【言 (1) イ (イ)】	ワークシート 観察
	・文章を読んで考えたことを「社説」として自分の意見をまとめる。	◎		○	・説明的な文章を読み、新たな発見や驚きなどを通して、自然と人間の関係についての自分の考えを広げようとしている。【関】 ・文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のもの見方や考え方を広くしている。 【読 (1) ヲ】	ワークシート 観察 発言

6 本時の展開

<p>本時の目標</p>	<p>文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨を捉える。</p>		
<p>観点別評価規準</p>	<p>文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨を捉えたりしている。【読（1）イ】</p>		
<p>準備物</p>	<p>ワークシート・掲示物・教科書・デジタルテレビ・パソコン・電子教科書</p>		
<p>学習の展開</p>			
<p>学習活動</p>	<p>指導上の留意事項</p>	<p>評価規準</p>	<p>評価方法</p>
<p>1 前時の復習をし、本時の目標を確認する。</p>	<p>・前時までのワークシートやノートを振り返り、序論と本論との関係について確認する。</p>		
<p><b>【学習課題】</b> 本論1を要約し、聞き手に正確に伝わるニュース原稿を作ろう。</p>			
<p>2 本論1を読み、ニュースの原稿として要約をまとめさせる。 (個人で考える)</p>	<p>・ニュースの時間は1分程度であることを伝える。 ・正しい情報を1分程度で伝えるためにはどの部分が必要かを考えさせる。→本論1を全部書くわけにはいかないことを意識させる。 ・個人でワークシートにまとめさせる。 ・中心となる文に気づかせる。</p>	<p>主体的な学び</p>	
<p>3 自分流のニュース原稿を交流する。(グループ)</p>	<p>・個人で考えたことを基に、グループで意見を交流させる。自分の意見を述べる際には、根拠を示すように指導する。 ・要約をまとめるときの視点について確認する。 ・交流した意見の参考になる部分をメモしたり、アドバイスをし合うように指導する。</p>	<p>対話的な学び</p>	
<p>4 交流したことを基にして、再度、本論1の要約をまとめる。</p>	<p>・友達の見解や、アドバイスを参考にもう一度自分の書いた原稿を読ませる。</p>	<p>・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨を捉えたりしている。 【読（1）イ】</p>	<p>ワークシート 観察 発言</p>
<p>5 自己評価表に記入する。</p>	<p>・相手によりわかりやすく伝えるためには、問いに対する答えだけでいいのかについて考えさせる。</p>		
<p>6 次時の予告</p>	<p>・自己評価をさせる。  ・次時、本論2のニュース原稿を書くということ伝える。ニュース原稿も、新聞を書くときに必要であることを伝える。</p>		